

小樽地区（小樽港）と日高地区（浦河港）から大漁目指し出漁

— 底曳網漁船が安全航海・安全操業を祈願 —

秋の爽やかな風を感じるようになった北海道では、底曳網漁業のシーズンを迎えた。定置網漁業、刺網漁業、地引網漁業、まき網漁業、底曳網漁業など、さまざまな漁業が存在するが、まき網漁業と底曳網漁業は、本船が漁場を移動して操業する漁法。一般的には、まき網漁業はアジ、サバ、イワシといった浮魚を、底曳網漁業はタラ、カレイ、エビ、カニといった底魚を主対象としている。底曳網漁業は漁船から伸ばした曳網（ワイヤーなど）に直結した袋状の漁網を曳航し、または引き寄せて多種多様な底魚類を漁獲する漁業

❖第 85 日東丸、第 57 丸中丸、第 81 桂丸、新世丸が小樽港から出港

約3カ月間の休養と本船整備作業および漁具の整備を終え、出漁に備えた。

9月8日、当地区所属船の第85日東丸(日東水産)・第57丸中丸(盛本漁業部)の2隻、9月13日に第81桂丸(伊藤漁業部)・新世丸(小樽機船漁業協同組合)の2隻で、それぞれ令和4年度の出漁に際し、安全祈願祭が執り行われ、各船主、乗組員一同は肅々と、安全航海と大漁を祈願した。

同月15日、天候に恵まれ、涼しい秋を感じられる中、出漁式が行われた。出漁時刻が近づくにつれ、乗組員の家族と関係者が岸壁に集まり、乗組員に大漁祈願と安全操業に対するエールが送られた。

今期出漁に向けて組合員より、「今年も無事に出漁することができー安心して出る。大漁を目指し、安全操業に努め頑張っていきたい」と意気込みが語られた。出港時間となり、4隻は一斉に離岸、出港し、船が見えなくなるまで、子どもたちは声を精いっぱい張り上げ「頑張ってねー」と元気に見送った。

❖沖合底曳船・第31一心丸が浦河港から出港

8月30日、浦河港にて9月より操業を開始する、日高地区の沖合底曳船、(株)山中水産所属、第31一心丸の安全祈願祭が執り行われ、今期の操業の大漁・安全航海を祈願した。

続く9月1日、第31一心丸は操業を開始した。出漁に際し、「新型コロナウイルス感染症など、不安はあるが、大漁目指して安全操業で頑張りたい」との意気込みが語られた。第31一心丸は、太平洋側日高沖を主な操業場所とし来年5月まで操業する。